妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究
（分担研究報告書）

旭川医科大学産科婦人科学教室

清　水　哲　也

研究計画，研究経過並びに研究結果

従来，妊娠中毒症は，妊娠貧血群より非貧血群の略ぼ2倍程度に多発する旨の統計調査についての報告があった。したがって，未熟児網膜症対象として，最も重要である。未熟児出生も防止するためには，未熟児出生原因の首位を占める妊娠中毒症の発生を防ぐ点で貧血対策の意義が大きい。一方，臨床的事実として貧血を伴う妊婦が，果して中毒症好発の母地となりうるか否かについて，妊婦貧血群と非貧血群の示群について中毒症発生頻度の比較を実施したところ，今回の疫学的調査においては，貧血群より中毒症が多発する結果はえられなかった。

しかし，貧血ならびに中毒症のcriteriaが確立していないこと，ならびに今回の疫学調査は，限られた調査対象であったことなどを併せ考えると，今後は統一調査用紙を作成し，研究班の全構成員が，このような疫学調査に参加し，母集団の拡大をはかり，さらには貧血の程度，中毒症の症状の重症度などを加味した多面的な階層別分類を実施することの重要性が指摘されたことは大きな意味があったものと考察される。

妊婦の貧血と妊娠中毒症に関する研究

旭川医科大学産科婦人科学教室

清　水　哲　也

研　究　目　的

今日，未熟児網膜症対策は，きわめて大きな社会問題になっている。一方，これまでの統計調査は，未熟児の実に３０％は，妊娠中毒症母体より出生していることを明らかにしている。したがって，未熟児網膜症の管理方式が，未だ確立していない現段階においては，未熟児出生を防止するところが，最大の未熟児網膜症対策といっても過言ではない。一方，妊娠中毒症になりやすい素地ないし基礎疾患として，たとえば糖尿病やアレルギー体質などと並んで貧血があげられている。しかし，糖尿病妊婦では，正常妊婦の４～５倍，アレルギー体質を有する妊婦の５０％が妊娠中毒症に罹患しやすいことなどが指摘されているにもかかわらず，貧血との関連性は，きわめて不明確といえる。そこで，母子保健の観点より，全妊婦の１０～１５％という高い罹患率を保有し，妊産婦死亡原因の常に首位を占め，かつ，未熟児出生原因としても，重要な意味合いを有する妊娠中毒症対策の一環として，妊婦における貧血と妊娠中毒症の関連性を検討した。

研　究　方　法

昭和５２年４月より昭和５３年１月までの間に旭川医科大学産科において分娩を終了した妊婦９９例を調査対象とした。

１）　貧血の判定基準

妊娠の全経過中，数回実施した血液が一般検査において，赤血球数３５０万未満，血色素１１g/dl未満，ヘマトクリット３３％未満のいずれか１項目以上に該当したものを，ここでは一義的

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究計画,研究経過並びに研究結果

従来,妊娠中毒症は.妊娠貧血群より非貧血群の略ぼ2倍程度に多発する旨の統計調査についての報告があった。したがって,未熟児網膜症対象として,最も重要である。未熟児出生も防止するためには,未熟児出生原因の首位を占める妊娠中毒症の発生を防ぐ点で貧血対策の意義が大きい。一方,臨床的事実として貧血を伴う妊婦が,果して中毒症好発の母地となりうるか否かについて,妊婦貧血群と非貧血群の示群について中毒症発生頻度の比較を実施したところ,今回の疫学的調査においては,貧血群より中毒症が多発する結果はえられなかった。